

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第 77 号(2022 年 6 月 6 日)

LET 九州・沖縄支部事務局発行

〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1

熊本学園大学 研究棟 302 号

林幸代研究室 TEL: 096-366-3230(代表)

E-mail: secretariat@j-LET-ko.org

編集: 林千晶・竹野茂・事務局

June 2022 LET Kyushu-Okinawa Chapter No. 77

Table of Contents

・支部長あいさつ(長加奈子)	1 頁
・第 49 回(2022 年度)九州・沖縄支部研究大会のご案内(麻生雄治)	3 頁
・2021 年度九州・沖縄支部ワークショップを受講して(竹野 茂)	5 頁
・新運営委員あいさつ	6 頁
・事務局からのお知らせ	8 頁
・編集後記	8 頁

支部長あいさつ

LET 九州・沖縄支部 支部長
長 加奈子 (福岡大学)

2018 年 4 月に LET 九州・沖縄支部第 8 代支部長を拝命して以来、会員の先生方のご協力の下、何とか 2 期 4 年間にわたり支部の運営を行うことができました。ありがとうございました。2021 年 11 月 6 日に開催された支部運営委員会での支部役員選挙で、三選され、もう 1 期支部長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

この 2 年間は、新型コロナウィルの蔓延により、学会活動も大きな影響を受けた 2 年間でした。特に 2020 年に予定されていた九州・沖縄支部がホストとなる全国研究大会は

翌年に延期され、さらにオンライン開催となりました。学会として前例のないオンライン開催ということで、大会実行委員長の植田正暢先生(北九州市立大学)には、プラットフォームの設計から各種運営まで並々ならぬご苦勞をおかけしました。植田先生をはじめ、実行委員の先生方、会員の先生方のおかげをもちまして、無事に、また盛会の内に全国研究大会を終えることができました。あらためて御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

コロナ禍により教育現場の DX 化は一気に

促進しました。今や小・中・高等学校でも児童、生徒が1人1台ICT端末を持つようになっています。そのような状況の中、当学会、当支部が外国語教育の現場にどのような貢献ができるか、あらためて考える時期が来ているのではないかと感じています。このような中、九州・沖縄支部は設立50周年を迎えました。50周年を記念し、2021年に支部学術賞を創設させていただきました。若手研究者のさらなる研究・教育実践活動を奨励するための「支部奨励賞」と支部紀要に掲載された優秀な論文に対して贈られる「支部論文賞」の2部門がございます。第1回は、支部紀要第20号に掲載されました「360度没入体感型バーチャルリアリティ技術を用いた英語パブリックスピーキング練習用システムの開発」(冬野美晴先生・山下友子先生)に授与されました。会員の先生方のますますの研究・教育実践活動を期待いたします。

そして2021年は、九州・沖縄支部にとって大きな精神的柱でありました名誉支部長池浦貞彦先生のご逝去の報に接した年でもありました。九州・沖縄支部は、LET創設から10年後、関西支部から独立する形で設立されました。創設からの長きにわたって、九州・沖縄支部を率いてくださった池浦先生のご逝去の知らせは大きなショックでもありました。新たな時代を迎え、池浦先生をはじめ支部創設にご尽力された先生方がこれまで育ててこられた九州・沖縄支部を、さらに発展させていかなければいけないと感じています。

そしてこの度、2022年度より2年間、3期目を拝命させていただくことになりました。未だ、新型コロナは収束の兆しが見えず、この2年間でオンラインでの学会や研究会が活発に行われるようになりました。物理的な移動のコストがかからなくなった分、国内外問わず、様々なイベントに多くの先生にご参加いただけるようになった反面、支部の存在意義というものも問われていると感じています。会員の皆様にとって、魅力的な学会活動とはどのようなものか、また同時に、若手会員に魅力ある学会はどうあるべきか、そのような課題に答えていく必要性を痛感しています。LET第11代会長 竹内理先生が「学会は楽会」であるべきだと常々おっしゃっていました。また名誉支部長 故池浦貞彦先生は、LETの前身である語学ラボラトリー学会(LLA (Language Laboratory Association))を“Love Love Association”とよくおっしゃっていました。研究活動、教育実践活動は1人で行うものではありません。他の研究者とまた先生方と交流することで、より良い研究成果に、またより良い教育実践につながります。会員同士が楽しく、仲良く研究・教育実践活動ができるような、そのような学会の重要性を両先生はおっしゃっているのだと感じています。このような学会活動を引き続き維持できるよう、ポストコロナ時代の新しい学会活動というものを模索していきたいと考えております。引き続き、ご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

第 49 回(2022 年度)九州・沖縄支部研究大会のご案内

大会実行委員長 麻生 雄治(大分大学)

第 49 回支部研究大会は、2022 年(令和 4 年)6 月 25 日(土)にオンラインで開催されます。当初は、大分大学教育学部を会場に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染の収束の見通しがなかなかつかないこともあり、急遽、オンライン開催ということになりました。



(上写真:大分大学教育学部)

今大会のテーマは、「英語表現力育成を目指した授業改善」です。ご承知のとおり、学習指導要領が改訂され、2020 年度より小学校が全面実施、2021 年度より中学校が全面実施、そして本年度より高等学校において年次進行で実施されます。知識偏重の英語学習から脱却し、思考力・判断力・表現力や、主体性を持って多様な人々と協働する態度を身につけることが一層求められるようになっていきます。また、グローバル社会の進展にあわせて、「英語を学ぶ力」より「英語を使う力」の必要性が高まっています。英語を使う力を向上させるには、4 技能のそれぞれの力を高めることは言うまでもありませんが、特に、話すこと、書くことの表現力の育成は急務だと言えます。全国の無作為抽出による高等学

校を対象とした「英語教育改善のための英語力調査」(平成 26 年度)においても、話す力と書く力に難があることが報告されています。今大会をとおして、これからの英語表現力の育成をどのように進めていくか、具体的にどのような授業が求められるかなどを参加者の皆さまと一緒に考える機会になればと思います。

午前中のワークショップでは、相原勝斗志先生(長崎県立佐世保西高等学校)を講師にお迎えし、「ICT を活用した英語授業改善の取り組み」というテーマで講習を行っていただきます。相原先生は、長崎県の英語教育推進リーダーとして、数多くの研修での講師のご経験があります。これまでの ICT に関する取り組みの中で、**Microsoft Teams**を用いた音読テストやスピーキングコンテストなどの実践をワークショップ形式で行っていただけると聞いています。



(上写真:相原勝斗志先生)

午後の講演では、田地野彰先生(名古屋外国語大学、京都大学名誉教授)にご登壇いただき、「明日の授業に活かす『意味順』

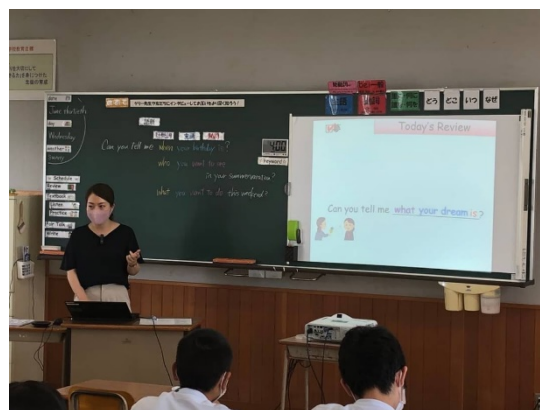
英語指導—文法指導の体系化を目指して—
というタイトルでお話いただきます。本講演
では、産出技能の育成を目的とした英文法
指導の体系化の試みのお話が予定されてお
り、その中でも「意味順」を活用した指導事例
などは今後の表現力育成のための授業を考
えるうえで大いに参考になると思われます。
「意味順」に関しては、近著の『明日の授業
に活かす「意味順」英語指導—理論的背景
と授業実践』（ひつじ書房、2021）や『＜意味
順＞英作文のすすめ』（岩波書店、2011）な
どで詳細に解説されていますが、実は、古く
は『「創る英語」を楽しむ』（丸善ライブラリー、
1999）ですでに、「使う」観点から文法をとら
えなおした意味順指導が述べられています。
その意味では、今回の大会テーマと見事に
合致したお話が期待できます。会員、非会員
を問わず、多くの小・中・高の先生方にもご
参加いただければと思います。



（上写真：田地野彰先生）

午後後半のシンポジウムでは、「英語表現
力育成を目指した授業改善」というテーマに
対して、吉永早紀子先生（中津市立中津中
学校）と三浦宏昭先生（大分県立大分上野
丘高等学校）にご登壇いただき、中学校と高
等学校の学校現場での授業実践や課題な
どを発表していただきます。吉永先生はこれ

までに大分県の教育研究大会での公開授
業やルーマニアでの教育経験もある先生で
す。今回は、「中学生の表現力育成を目指
した、目的と主体性のある言語活動の設定
とその教材のあり方」についてご発表予定
です。三浦先生は、これまでに大分県の英
語教育推進リーダーとして、また文科省の
研究指定校の研究主任としてご活躍をさ
れてきた先生です。今回は、表現力育成の
ための工夫として、「発表」と「やりとり」
の両立を目指した指導についてご発表予
定です。最後に、私のほうからは、大学生
の英語スピーキングの流暢さを向上させ
る指導の報告をさせていただきます。



（上写真：吉永早紀子先生）

今回はオンライン開催のため、残念ながら
大会終了後の情報交換会は行われません
が、参加者同士、また講師の先生方や展示
協賛の賛助会員の方々も交えての情報交換
は有意義ですので、今回は電子メール等で
交流の輪が広げられればと思います。また、
大分ならではのおいしいものを召し上がっ
ていただけないことも非常に残念です。

九州・沖縄支部研究大会は、一昨年は新型
コロナウィルスの流行で開催されず、また、昨
年は LET 全国大会を九州が担当したため
開催されませんでしたので、実に 3 年ぶりの

開催となります。大会まであと 1 カ月弱となりました。慣れないオンライン開催ということですが、対面での実施と同じか、あるいはそれ以上の成果を得られるような有意義な大会に

なればという思いで、鋭意準備をしているところです。一人でも多くの方々のご参加を、大会実行委員一同お待ち申し上げます。

2021年度九州・沖縄支部ワークショップを受講して

竹野 茂（宮崎公立大学）

2022 年 3 月 18 日(金)に LET 九州・沖縄支部 2021 年度ワークショップがオンラインで開催されました。講師は立命館大学の木村修平先生で、タイトルは「LET 関西電話研 presents リモートワーク Hack 術お蔵出しスペシャル」というものでした。



軽妙な関西弁で次々とhackを繰り出す木村先生のお話は大変面白く、また、日頃の私たちのICT活用を見直すきっかけを与えていただいたと思います。

まず、木村先生の経歴をスクリーンショットにてご紹介させていただきます。以下の通りです。

講師の紹介

- 木村 修平 / KIMURA Syuhei
 - 1977年 京都市山科区 出身
 - 立命館大学 生命科学部 生命情報学科 准教授
 - 研究分野：高等英語教育におけるICT利活用
 - 米国ミシガン州立大学 社会科学部 卒業
 - 立命館大学大学院 言語教育情報研究科 修了
 - 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修了
 - 博士(政策・メディア)
 - 2021年度より、立命館大学教学部副部長(言語教育改革・全学DX担当)

共著発売中！『プロジェクト発想型英語プログラム：自分軸を軸とする「教えない」教育』（北大路書店）

上記スクリーンショットの最後にありますように現在は立命館大学教学部副部長というポジションで、DX (Digital Transformation)に取り組んでおられます。DX とは、「デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革」し、「既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの」と定義されるようで、大学内の DX を推し進めることは、すなわち、教学のあり方をも変えていくことになるようです。

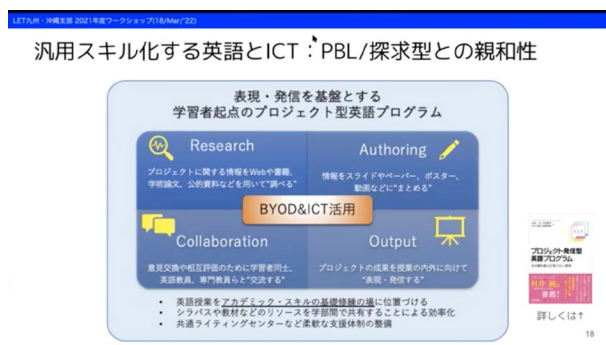
上記のようなお立場から日本の教育をご覧になったの疑問点を述べられました。Word のスタイル設定を例に取られ、日本の学習者の ICT 活用が効率的でないことを指摘され、大学における BYOD (Bring Your Own Device)の重要性を説かれていました。Smart Phone の活用ではなく、PC の活用を声高に解いておられたのが印象的でした。それに加え、さまざまなショートカットの紹介、便利なアプリの紹介もされており、大変参考になりました。

新世代ショートカットキーを使いこなせ！

- Cmd + W：タブやウィンドウを閉じる
- Cmd + Shift [/]：左/右のタブやシートに移動
- Cmd + Shift + L：左揃え
- Cmd + Shift + E：中央揃え
- Cmd + Shift + R：右揃え
- Cmd + Shift + T：最後に閉じたタブを復元
- Cmd + Shift + 7：番号付きリスト
- Cmd + Shift + 8：箇条書き
- Cmd + Shift + 9：引用
- Cmd + K：ハイパーリンクを挿入

※WindowsはCmdをCtrlに

(ショートカットの一例)



最後に、今後の授業のあり方を根本的に変える可能性のある新たな考え方を打ち出していच्छ

新運営委員あいさつ

新しく運営委員に就任された先生方からの挨拶を掲載いたしたいと存じます。お名前のあいうえお順

今年度より外国語教育メディア学会九州・沖縄支部の運営委員を務めさせていただくことになりました、宇部工業高等専門学校岡田美鈴と申します。専門は第二言語習得論と認知心理学で、テストバッテリーと呼ばれる複数のテストと反応時間や視線計測などのデータをあわせることにより、日本人英語学習者の文法知識を認知的発達段階ごとにわけていくという研究をしています。博士課程の学生時代から、

今年度、運営委員を務めることになりました長崎大学の奥田と申します。反転授業、オンライン授業における指導法の開発、自律性の育成をテーマに研究をしています。大学では、教養教育課程の英語科目を担当し、「楽しく学ぶ」をモットーに授業を行

新たに運営委員となりました福岡大学の竹安です。大分大学の麻生雄治先生とともにブログを担当する

いました。上記スクリーンショットにあるような、アカデミック・スキルの基礎としてのプロジェクト型英語プログラム* (新4技能とも呼べるもの)の提案です。

ものを考えるツールとしてのICT活用が、今後の学習の基礎になっていくものと考えられます。

*注 詳しくはスクリーンショットにも見えています、
プロジェクト発信型英語プログラム：自分軸を鍛える「教えない」教育(北大路書房)をお読みください。

に記載させていただきます。

岡田美鈴 (宇部工業高等専門学校)

福岡大学の長加奈子先生をはじめ、本学会に所属されている多くの先生方にお世話になりながらここまで来ることができました。今後は運営委員として、その時のご恩を少しでもお返しできるよう、また本学会の発展に少しでも貢献できるよう、微力ではございますが努めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

奥田阿子 (長崎大学)

なっています。学会の運営委員は、初めての経験となります。右も左も分からないことばかりですが、本学会の運営に貢献できるよう精一杯努めて参ります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

竹安 大 (福岡大学)

こととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。ブログ担当委員の初仕事として、LET blog 第208号の

九州・沖縄支部による支部企画の欄に記事を書かせていただきました。私の自己紹介的な話や研究分野等はその記事に書いておりますので、興味のある方はご覧いただければと思います。なお、LET

2022年度より、支部運営委員を拝命いたしました綱です。長崎県立大学佐世保校で専任として働いた後、現在は長崎県立大学その他、福岡県と佐賀県の大学でも非常勤講師をしております。コロナ禍の前には、CALL 教室の活用などを工夫しておりましたが、コロナ禍のこの2年間には、遠隔授業で様々な取り組みを自分なりに試みてきました。

複数の大学で授業を行ったこともあり、Google Classroom, Teams, Manaba, moodle と授業で使用するプラットフォームにもまた複数の種類がありました。大変だと感じることも多くありましたが、それぞれのプラットフォームによいところがあり、実のところ遠隔授業を行うことは楽しくもありました。実感したのは、思ったほど遠隔は対面より効果が薄れるわけではなく、むしろ工夫次第では学習効果の向上にもつながるということでした。学生の皆さんが録音して提出する音読のファイルは、周りを気にせず大きな声で練習するためか、対面で行った時よりもむしろ優れたものになっていたのは大きな驚きでした。

今年度より LET 九州・沖縄支部の運営委員を務めさせていただくことになりました林千晶です。入会からちょうど 20 年目です。18 年前に事務局を務めて以降は、会計監査をさせていただいておりました。支部だよりの担当は初めてですが、竹野先生に教えていただきながら頑張ります。LET ではいつも最先端の話題を扱っていただき大変勉強になります。コロナ禍のオンライン授業でも非常に助かりました。

blog の支部企画は 4 カ月に 1 回のペースで九州・沖縄支部が記事を担当することになっており、記事を執筆して下さる方を常に探しております。記事にできる題材をお持ちの方は、ぜひお知らせください。

綱 智子（長崎県立大学非常勤講師）

コロナ禍 3 年目の 2022 年度は、長崎県立大学（クォーター制のため週 2 回授業）で、火曜日は遠隔、金曜日は対面で授業を行っています。金曜日は、学生の皆さんに直接会うことができ、大変うれしく思っております。しかし、遠隔、対面それぞれによいところがあるということを今年度は実証すべく、学生の皆さんにも感想や意見を聞きながら、遠隔、対面それぞれの授業の改善に努めてまいりたいと思います。対面授業を再開して思うのは、せっかく使い始めた Google Classroom 等も活用しながらかつ、長距離の通勤も両立させるのは結構大変だということです。学生の皆さんが予習・復習で提出した課題にコメントをつけるという、遠隔で始めたことはそのまま続いています。大変ではありますが、これがポストコロナのスタイルになるのではないかという気もしています。いつでも、学習プラットフォームを活用して遠隔授業ができるようになれば、災害や疫病のため休講というのは過去の話になるのかもしれない。

林 千晶（福岡女学院大学）

皆さんのお話を伺って、前向きに取り組む事が出来ました。試行錯誤して使えるようになった Google Classroom や Teams 等ですので、対面授業になった現在でも、良い面を生かしながら使い続けており、万が一の感染にも備えています。まだまだ先の見えない状況ですが、何事にも出来る限り役に立てよう務めたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からのお知らせ

【新会員（2022 年 5 月 25 日現在）】

<正会員・学生会員>

石橋頌仁(福岡大学大学院)

【支部紀要第 22 号発送】

支部紀要第 22 号を 5 月中旬に発送いたしました。
もしまだお手元に届いていない場合には事務局あてにご連絡ください。

【LET 九州・沖縄支部第 49 回支部研究大会のお知らせ】

LET 九州・沖縄支部第 49 回支部研究大会が、
2022 年 6 月 25 日(土)にオンライン開催されます。
大会参加方法の詳細につきましては、支部紀要に
同封されておりますのでご確認ください。皆様のご
参加をお待ちしております。詳しくは支部 HP をご覧
ください。

【会費納入のお願い】

2022 年度の会費振り込みのお願いが、登録住所
宛に送付されていると思います。まだお振り込みい
ただいていない会員の方は、お早めにお振り込み
いただきますようお願いいたします(個人会員・団体
会員は 6,000 円、学生会員は 3,000 円)。未納の

状態が続く場合には支部からの発送物を停止させ
ていただく場合がございます。支部の円滑な運営の
為にもご協力お願いいたします。なお住所・所属等
に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変
更していただきますようお願い申し上げます。

【会員情報更新のお願い】

新年度になり、支部にご登録の情報(住所・ご所属
等)に変更がございましたら、支部 HP より情報を更
新いただくか、事務局あてにご連絡ください。

【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部>

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒862-8680

熊本市中央区大江2丁目5-1研究棟302号

熊本学園大学

林幸代研究室内

編集後記

新しく支部だよりの編集委員として福岡女学
院大学の林千晶先生が就任されました。よろし
くお願いします。また、第 76 号まで編集に尽
力していただきました大分大学の大下晴美先
生、ありがとうございました。

新型コロナの影響で九州・沖縄支部がホスト
役の全国研究大会が延期されたことにより、3
年ぶりの支部研究大会が行われます。オンライ
ンではありますが、顔を合わせて語り合い楽し
い会にいたしましょう。参加の方よろしくお願

いします。(茂)